

I 市 勢

- 1 概 要
- 2 人 口 ・ 世 帯 数
- 3 位 置 と 地 形
- 4 市 域 の 変 遷
- 5 地 目 別 土 地 面 積

1 概要

平成16年12月6日に桑名市、多度町及び長島町が合併し、現在の「桑名市」が誕生。

市域は、三重県の北部に位置し、名古屋から25km圏にあり、東は愛知県、北は岐阜県に接しており、西はいなべ市及び員弁郡東員町、南は伊勢湾及び四日市圏域に接している。

地形は、養老山系の南東部に位置する山地・丘陵地帯と伊勢湾に面し、木曾三川と員弁川がつくる沖積平野、輪中に代表される低くて平坦な水郷地帯が広がり、西部丘陵地では名古屋圏でも有数の住宅団地や工業団地が形成されている。

面積は、136.68km²で県土の約2%を占め、人口は、約14万3,000人。

東海道五十三次の42番目の宿駅として発展してきた桑名市は、現在でも高速道路や国道、鉄道など主要幹線が集中する交通の要衝として発展を続けている。

農業は、水稻を基幹作物として、平坦部ではトマト、ナバナなどの施設・露地野菜やシクラメンなどの施設園芸、丘陵地ではミカン、タケノコとの複合経営が行われている。

水産業は、木曾三川河口の汽水域を漁場として、ハマグリ、シジミを始めとする貝類の漁獲と海苔養殖、魚類の漁獲生産と、主に河川域でのシジミや魚類の漁獲が古くから行われている。

商業は、駅前や主要幹線道路の周辺に商店街が形成されているほか、大規模小売店舗や巨大アウトレットモールが大きな集客力を持ち、三重県北勢地域や県外の一部を商圈にもつ県内有数の商業都市として発達してきた。

工業は、全国有数の産地として知られる鋳物製造を始めとして、一般機械器具製造業や金属製品製造業が発達し、その中から「ホーロー鉄器」や「ボールベアリング」が開発された。

このほかにも古くからの「古萬古」、「箆筒」、「サンダル履物」などの伝統的工芸産業も受け継がれているうえ、合併に伴いIT産業等新産業分野が桑名市の工業の中核を占めるようになった。

林業は、木材価格の低迷など取り巻く情勢は厳しい一方で、水源かん養、観光や教育の場としての機能が見直されており、森林の公益的機能の視点に立った維持・保全活動が求められている。

また、年間約1,815万人の観光客が訪れる桑名市は、多度山や多度峡、木曾川などの自然資源、六華苑や七里の渡跡、桑名の千羽鶴、多度大社、輪中の郷などの歴史的・文化的資源、長島温泉や大規模アミューズメント施設など、豊富な観光資源を有している。

このように、桑名市は多度山系の緑と木曾三川の水郷が醸し出す自然の豊かさと、宿場町・城下町として栄えた歴史がおりなす調和のとれたすばらしいまちであるとともに、最近では、民間投資による新規産業立地の動きも活発化しており、新たな産業発展の可能性も高く、就労の場の確保や地域経済の活性化が期待されている。

平成28年4月には伊勢志摩サミットに先駆けて行われた「2016年ジュニア・サミット in 三重」が盛大に開催されたところであり、この機会を通じ、今後一層、国外からの観光客や国際会議などの招致を促進し、「本物力こそ、桑名力。」をキャッチフレーズに、桑名の持つ本物の魅力を全国に広めていこうと様々な事業を進めている。

2 人口・世帯数

(1) 人口

143,088人（平成28年3月末現在）

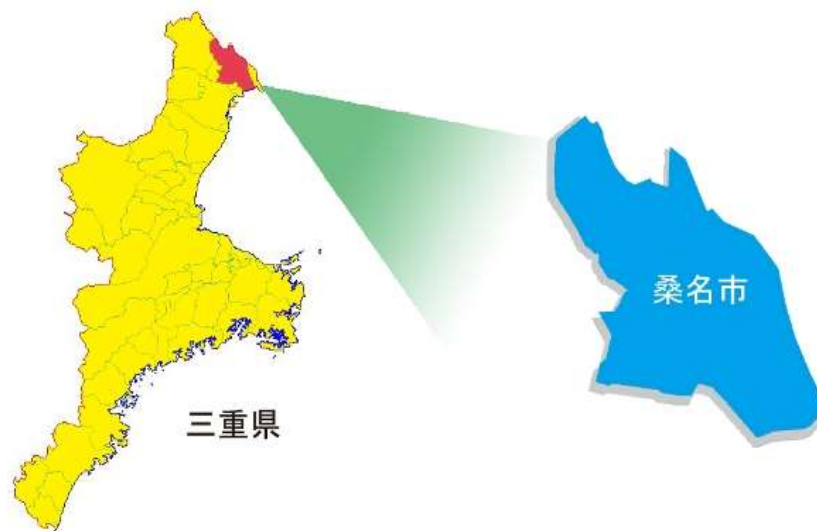
(2) 世帯数

57,345世帯（平成28年3月末現在）

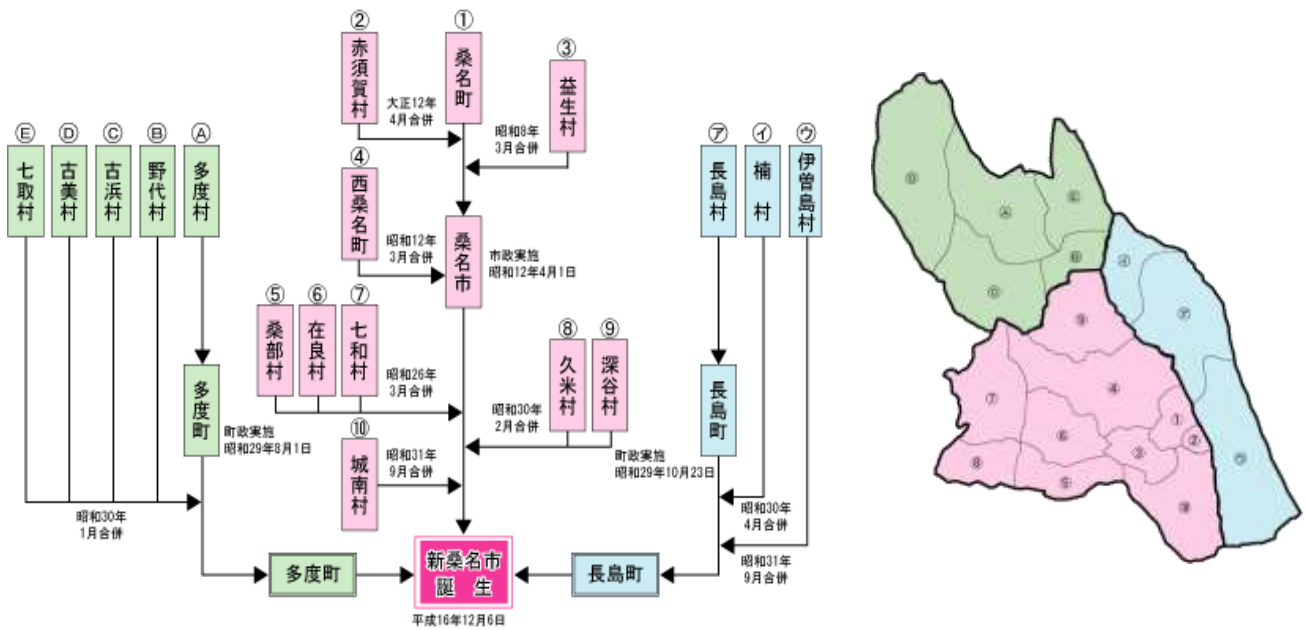
3 位置と地形

桑名市の位置（東経136度41分 北緯35度3分）

総面積 136.68 km²



4 市域の変遷



5 地目別土地面積

単位：㎡、%

地目	面積	構成比
総面積	136,680,000	100.00
田	23,954,015	17.53
畑	6,687,825	4.89
宅地	21,555,161	15.77
池沼	422,098	0.31
山林	10,516,122	7.69
原野	525,816	0.39
雑種地	6,797,061	4.97
その他	66,221,902	48.45

※平成27年1月1日現在